

## それぞれの人間科学、協働の人間科学



巻頭言

中道正之\*

What is “Human Sciences” ?

Key Words : interdisciplinary, cooperative, Human Sciences

人間科学部は何をすところですか？全国で最初の人間科学部として大阪大学に人間科学部が創設されたのは1972年です。それから42年経過し、同じ名前の学部が全国に30学部あるらしいのですが、それでも、人間科学とは何か、何を研究しているところなのかはかなり分りづらようです。

私たちの人間科学部は、文学部から心理学、社会学、教育学が独立する形で原型が作られ、そこに、生理学や自然人類学などの理系分野も組み込み、当初から文理融合や学際性を大切にしてきました。その対象は人間と人間が営む社会です。つまり、それぞれの既存の学問分野の考え方や方法論を用いて、人間とは何か、社会とは何かを探求するのですが、常に、異なる分野の多様な視点や研究方法も取り入れて、あるいは、互いに連携しながら研究を進めています。したがって、人それぞれに「私の人間科学」があると言えます。

私自身の人間科学のパートナーはヒト以外の霊長類です。つまり、サルです。集団の中で暮らすサルたちの1頭1頭の顔を覚え、誰と誰が何をしたのかを記録し続けるという地道な仕事です。ヒトとサルは互いに進化の隣人です。観察を通して浮かび上がってくるサルの生き様の中に、ヒトのそれといろいろな面で類似点を見つけることができます。例えば、子育てであり、子どもの発達です。ヒト同士の親密な関わりの基盤が心の結びつきにあるように、親し

いサル同士にも同様のものが認められます。つまり、進化の隣人であるサルの行動の中に、ヒトの行動の基盤や萌芽といえるものが認められるのです。だからこそ、サルの研究が人間とは何かという疑問にも少なからず答えることができるのです。

人間科学部・研究科の学生も教員も、私のように自分の「人間科学」を持っています。既存の学問分野に軸足を置きながらも、隣接する研究領域や一見遠いと思える領域にまで関心を持ち続け、多様な視点で人や社会を見つめ、学際的に考え、成果を発信し続けています。今日の社会は変動を続け、そのスピードも増しています。私たちはこのような現代社会で生きる人の心や暮らし、社会を探求するために、現場に寄り添い、課題を見出し、その解決を目指す実践性も大切にしています。もちろん、社会は日本だけに閉じているのではなく、世界に広がっています。グローバルな課題に果敢に挑戦し、人間科学を展開することも重要なことです。

18講座から出発した私たちの人間科学部も、40年余で、41講座にまで増えました。その対象領域は遺伝子から地球市民・社会にまで広がっています。このことは人間科学部・研究科の教員・学生が現代社会の要請に応えるように、研究を展開してきた証左でもあります。イノベーション、つまり新しいものや形、見方、考えが生まれるのは、異なるものがうまく交わるとき、あるいは融合するときだと思えます。人間科学部・研究科においては、誰もが独自の研究を進めながらも、現代社会が求める課題に対して、皆で一緒になって、多様な方面から学際的に探究することも行っています。そして、このような協働的な研究がイノベーションにつながると思えます。私たちの人間科学部・研究科が、表面的には個々の課題を追求しながらも、深層では知のネットワークで皆がいつも多様に繋がり、必要な時には素晴らしい一体感を顕在化させる離合集散的な集まりであり続けたいと思っています。



\* Masayuki NAKAMICHI

1955年9月生  
大阪大学大学院人間科学研究科修士  
(1984年)  
現在、大阪大学大学院人間科学研究科  
教授 人間科学研究科長・人間科学部長  
学術博士 比較行動学、動物園行動学  
TEL : 06-6879-8129  
FAX : 06-6879-8010  
E-mail : naka@hus.osaka-u.ac.jp